

2023 SUPER TAIKYU Round.5

All Photographs by Noriaki MITSUHASHI / N-RAK PHOTO AGENCY

MOTEGI

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2023
Supported by BRIDGESTONE
第5戦 もてぎスーパー耐久 5Hours Race

2023年9月2日(土)～9月3日(日)
モビリティリゾートもてぎ(栃木県)



DAT の挑戦はじまる。ST-X は苦戦を強いられる

2023年のスーパー耐久シリーズはいよいよ後半戦。第5戦の舞台となったのは、栃木県のモビリティリゾートもてぎだ。ブレーキに厳しいコースだが、この夏の猛暑もあり、8月31日(木)の走行初日から、気温35度を超える酷暑との戦いともなった。

そんな週末に向け、ROOKIE Racingは今季これまでのレース同様3台体制で挑んだ。ST-Xクラスに参戦する中升ROOKIE AMG GT3は第4戦オートポリスでの優勝によりランキング首位につけているが、同時にウエイトハンデも厳しくなってきた。しっかりと上位につけレースウィークを終えることが求められた。

一方、ORC ROOKIE GR86 CNF Conceptは前後の剛性アップを狙ったパーツを導入。市販車のGR86でもテストされてきたパーツだが、初日からしっかりと効果を確認することができた。

そして、液体水素を使った挑戦は第4戦オートポリスの後、開発期間を設けるべく第5戦もてぎは参加せず。とはいえ、“もっといいクルマづくり”の挑戦は留まることを知らない。TGRラリーチャレンジ等でテストを重ねてきた『ダイレクト・オートマチック・トランスミッション』を使用したORC ROOKIE GR Yaris DAT conceptを投入することになったのだ。

ROOKIE Racingのオーナーであるモリゾウが、たくさんの人たちにスポーツドライビングを楽しんでもらえれば……という思いの

もと開発がスタートしたオートマチック・トランスミッションを搭載しており、この第5戦から新たな挑戦がスタートした。



特別スポーツ走行／STEL 専有走行

8月31日(木)～9月1日(金) 天候：晴れ 路面：ドライ



走行初日となった8月31日(木)は、午後1時から3時間の特別スポーツ走行が行われた。走行開始時点ですでに気温は35度を超え、ジッとしていても汗が噴き出してくるような陽気。チームスタッフも大粒の汗をかきながら3時間の走行をこなした。

順調に週末に向けた準備をスタートさせたのは中升 ROOKIE AMG GT3。Aドライバーの鵜飼龍太も、蒲生尚弥や片岡龍也などベテランからのアドバイスを聞き

ながら週末の流れを進めていく。

一方、ORC ROOKIE GR86 CNF Conceptは走行途中に小さなトラブルが発生してしまい、途中長いピットインを強いられることに。監督も兼務する大嶋和也は剛性アップの狙いはしっかりと感じられたとしつつも、トラブル発生に「もったいなかったです」と振り返った。一方、ORC ROOKIE GR Yaris DAT conceptは佐々木雅弘のコースイン時にやや手間取ったものの、その後少し

ずつペースを上げていった。

明けて9月1日(金)は午前9時30分から、グループ2の専有走行が始まった。ORC ROOKIE GR86 CNF Conceptは山下健太、加藤恵三と交代し周回。ORC ROOKIE GR Yaris DAT conceptは佐々木、モリゾウと交代しながらラップを重ねた。午前10時45分からのグループ1の走行では、中升 ROOKIE AMG GT3は蒲生、鵜飼と交代し周回した。

午後2時から行われた2時間の専有走行では、中升 ROOKIE AMG GT3は平良響から走行を始めると、鵜飼、蒲生、そして片岡と交代。決してタイムが劣っているわけではないが、ウエイト分、さらに今回は性能調整もありライバル勢が速い状況だ。

ORC ROOKIE GR86 CNF Conceptは山下から加藤、そして最後は豊田大輔が周回を重ねていくことに。この日はトラブルはなく、充実した2日目を送っている。

そしてORC ROOKIE GR Yaris DAT conceptは佐々木からモリ

ゾウ、石浦、ふたたび佐々木と交代しながら周回。時折ステアリングに装着されたパドルシフトを操作しシフトチェンジを行うことがあったものの、ほとんどの時間、ドライバーたちはDレンジに入れたまま、プログラミングに任せて走行を重ねた。シフトチェンジから解放されたモリゾウや小倉康宏は、プロのふたりとタイム差が縮まったことに喜びの声を上げた。「パドルも試してみましたが、Dレンジで走っている方が正確に作動してくれているので驚いています」と小倉も驚きを語った。ただ、熱の問題があり、ストレートスピードも伸びない。そこで、チームとTOYOTA GAZOO Racingは急遽車体の改良を実施。深夜、早朝に作業を行うことになった。



公式予選

9月2日(土) 天候：晴れ 路面：ドライ

9月2日(土)も変わらぬ暑さのなかで迎えた予選日。ウォームアップでも3台は周回を重ねたが、ORC ROOKIE GR Yaris DAT conceptは前夜の大改良が実り、冷却性能が上がりストレートスピードも改善。ただ、これにより燃費が悪くなってしまったこともあり、ウォームアップ終了時にコース上にストップしてしまった。

改良の弊害がさらに公式予選でも出てしまう。モリゾウがアタッカーを務めたAドライバー予選で

は、なかなかコースインできず、ようやく走りはじめたところで電気系のトラブルによりV字コーナーでストップしてしまった。ただ、ここでモリゾウから届いた無線でトラブルの原因が明確となった。佐々木のBドライバー予選までにトラブルが解消。2分08秒872で、惜しくもST-2クラスのGR YARISには届かなかったが、好タイムを記録することに。C、Dドライバー予選でもトラブルが再発することはなかった。

一方、ORC ROOKIE GR86

CNF ConceptはAドライバー予選で加藤が「少し失敗してしまいました」と語るも、きっちりと#61 BRZを上回るタイムを記録。Bドライバー予選では山下健太が2分08秒098というタイムを記録し、大嶋、豊田大輔ともしっかりと予選を終えたが、熱の問題がやや課題となっていた。

そして、ST-Xクラスの中升 ROOKIE AMG GT3は、Aドライバー予選で鵜飼龍太が「最終コーナーで少し欲が出てしまいましたが、ウエイトハンデを考える

と良いタイムが出せたのでは」と好タイムを記録。Bドライバー予選でも蒲生尚弥がアタックを決め、フロントロウの2番手を獲得した。片岡龍也監督も「ウエイトを考えると順調だと思います」と手ごたえを得ている様子だった。



GR YARIS

#32 決勝レース

9月3日(日) 天候:晴れ 路面:ドライ

3日間の走行を経て迎えた9月3日(日)の決勝日。朝方こそ曇り空だったものの、決勝レースを前にして気温はグングンと上昇。気温33度/路面温度42度という厳しい暑さのなか、午前11時14分、決勝レースの火ぶたが切って落とされた。

前日の公式予選ではAドライバー予選を走れなかったことから、最後尾からレースを戦うことになったORC ROOKIE GR Yaris DAT conceptは、モリゾウがスタートを務めた。

今回はST-5クラスの開催がないことから、前を走るのはST-4クラス車両が主だが、モリゾウはスタート直後からST-4車両を続々とオーバーテイクしてくる。DATの好影響でドライビングに集中できているのか、ペースも快調。9周目には、なんとORC ROOKIE GR86 CNF Conceptの背後まで追いついてきた。

モリゾウは19周を走るとピットインし、小倉康宏に交代する。今回は、前半の2時間をジェントルマンドライバーで、後半の3時間をプロで繋ごうという作戦が組まれていた。「思っていたよりも良いペースで

走れました。ただ、後半少しタイヤがタレてきたときは操作性が難しかったところもありました」と小倉。「スティント終盤は少しダウンシフトを入れたときもありましたが、ずっと楽に走れました」とDATも快調だったと振り返った。

スティント序盤にはフルコースイエローも入るなど難しいなかでの走行となったが、小倉はしっかりと29周をこなすとピットへ。今度は佐々木にステアリングを託した。ここからはプロの出番だ。「温度の問題もほとんどクリアすることができました。あとは、実はLSDに問題があったんです。予選のときに、ニュータイヤを履いてもユーズドタイヤとタイムが変わらなかったんです。ニュータイヤを履くとクルマが傾き、イン側がホイールスピンしてしまい、3速に上がったりにしていたんです」と佐々木。

「燃料やタイヤによっても変化があったりなど、DATについては今回の決勝レースを通じて、さまざまな気づきがありました。そういったLSDの改良をすれば、MTよりもタイムは良くなると思います。それに、何より楽です(笑)。パドルでも走ることができそうですね」



そんなさまざまな発見を得ながら27周を走った佐々木は、76周目にピットイン。レースの残り2時間ほどを、石浦宏明に託すことになった。

石浦も他のドライバー同様、Dレンジに入れたまま周回を重ねていき、途中一度ピットインを行うが、その直前には2分10秒855というレース中のベストラップも記録。このタイムはST-2クラスで優勝した#225 GR YARISのMTでのタイムに0.2秒差まで近づくものであり、石浦のペースの良さもあり、続々とST-2車両をオーバーテイクした。

さらに終盤には、ST-2クラスの2番手を走っていた#7ランサーが近い距離となった。ATのレーシングカーで歴戦の猛者を抜くことができれば、DATの大きな可能性を証明することもできる。

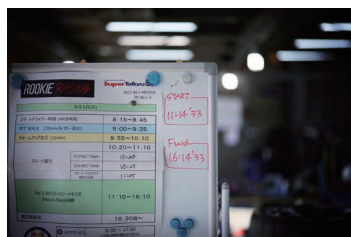
コクピットで快走をみせる石浦に、#7ランサーとのギャップを報せる無線が飛んだ。無線の主はモリゾウだ。石浦はその期待に応えブッシュを続け、#7ランサーを抜くまでには至らなかったものの、同ラップでフィニッシュすることに成功した。

「正直、初日の状態だったら完走で

きなかったと思います。それくらいこの4日間の進化はすごいと思いました」と石浦はレースウィークを振り返った。

「みんなでテレビ電話を繋いで、エンジニア同士がどんどん改良してくれるんです。その改良の現場を皆さんの前で観てもらいましたからね。もし市販化されたときに、『あのときの現場のクルマか』と分かるのが良いですね」

走り出しこそ苦戦したDATでの初挑戦は、市販化も見据える大きな可能性を残しレースを走り切った。佐々木は「ST-2クラスで戦ってみたい」と次なる挑戦へワクワクした表情を浮かべた。



GR86

#28 決勝レース

9月3日(日) 天候: 晴れ 路面: ドライ



9月2日(土)の公式予選では、ST-2 クラス車両を上回る総合31番手につけた ORC ROOKIE GR86 CNF Concept。とはいえ、ライバルである #61 BRZ はすぐ後方の33番手、そして今回も燃料を変更するなどさまざまなトライを繰り返し、速さを増している #55 MAZDA 3 も34番手と、まったく侮れない。予選までで確認された剛性アップの走りを活かすべく、決勝レースでも先着することを目指した。

今回、ORC ROOKIE GR86 CNF Concept のスタートドライバーを務めたのは豊田大輔。午前11時14分に迎えたスター

ト直後、大輔はシフトがうまく入らず、やや出遅れてしまう。そんななかで1コーナーイン側に向けてアプローチしていくが、#61 BRZ の山内英輝選手がやや強引にさらにイン側を突いてきた。2台は1コーナーでまさかの接触を喫してしまう。

大輔にとってはわずかにミスがあったことも事実ではあるが、「少し向こうが強引ではなかったかな、という印象があります。あちらはプロですし、こちらはジェントルマンで、ラインを1本残していたので……」と大輔は接触を残念がった。

幸いにも車両を破損するほどではなく、2台はそのままレースを続けていくが、ふたたび競り合いのなかで2台は接触してしまう。これも大輔にとっては「ちょっと残念」な出来事ともなってしまった。

ただその後、大輔は先行することができ、加えて後方から ROOKIE Racing カラのマシンが近づいてくるのに気がついた。モリゾウが駆る ORC ROOKIE GR Yaris DAT concept だ。後続をかわし近づいてきていたが、ORC ROOKIE

GR Yaris DAT concept は先にピットイン。「同じくらいのペースで楽しかったんじゃないでしょうか(笑)」という大輔との2台のランデブー走行はそこで終わりを告げた。一方の大輔も接触の影響もなく、29周のスティントを終えりとピットイン。加藤恵三に交代した。

加藤は燃費の厳しさ、さらに暑さもあったことからタイヤも劣りながら周回を重ねていったが、51周目、まさかのアクシデントが。バックストレートでブレーキングした際、右フロントタイヤがパンク。幸いピットに帰り着くことができ、車両にダメージはないままピットに戻ることができた。「その後はバランスを見ながら走っていきましました」と加藤は緊急ピットインがありながらも、63周まで走りピットイン。今度は大嶋和也に交代した。

序盤の接触、さらに加藤のスティントでのタイヤトラブルなど、さまざまなことがあった ORC ROOKIE GR86 CNF Concept だったが、大嶋に交代してからのスティントは順調そのもの。「燃費走行をしていきましました、タイヤが消耗してくるとア

ンダーステアが強くなったり、熱の影響でパワーがいまひとつ出なかったなど課題はありましたが」と自らのスティントを振り返った大嶋だったが、何事もなくきっちりとスティントを遂行。残り1時間15分強のスティントを山下健太に託した。

「気温、路面温度が下がってきたのでペースも良かったですし、クルマのバランスとしては過去いちばん良かったくらいでした。燃費に気を遣いながら走りましたが、クルマの進化を感じることができました」と、この終盤のコンディションに ORC ROOKIE GR86 CNF Concept はフィット。快調なペースで129周を走り切った。タイヤトラブル等もあったことから ORC ROOKIE GR Yaris DAT concept には先着されてしまったが、それでも今回のクルマの進化は十分に結果に結びつけることができたと言えるだろう。

次戦岡山は、ORC ROOKIE GR86 CNF Concept は欠場。次回の登場は最終戦富士となる。次世代の GR86 に繋げるため挑戦を続けてきたが、今季の集大成とすべく、チームは最終戦に臨んでいく。



AMG

#14 決勝レース

9月3日(日) 天候:晴れ 路面:ドライ



ドライバーたちの頑張りにより、予選で3番手につけた中升ROOKIE AMG GT3。今回、性能調整やランキング首位によるウェイトハンデなど厳しい面もあるが、シリーズランキングを考えれば表彰台は獲得しておきたいレースに臨んだ。9月3日(日)の決勝日は気温33度という暑さとなったが、メルセデスAMG GT3はクーリングが優れており、ドライバーにとっても優しいことも武器と言えた。

そんな決勝レースのスタートドライバーを務めたのは平良響。フロントロウの2台はジェントルマンドライバーがスタートドライ

バーを務めていたが、平良はなかなか2番手を攻略することができず、逆に背後につけた#23メルセデスAMG、#202NSXに攻められる展開となってしまう。8周目には#23メルセデスAMGに先行を許してしまうが、逆に30周目、#1GT-Rがラップダウン車両と接触しグラベルストップ。フルコースイエローが導入され、ここで中升ROOKIE AMG GT3は3番手に戻った。とはいえ、実力で#1GT-Rを抜けたわけではない。今季悩まされている決勝ベースの悪さが今回も出る展開となってしまった。「なぜなのか分かりません。自分のドライビングも含めて原因を探って、これだろうと臨んでまたこれなので……」と平良は悔しがった。

37周を終え平良は苦しいスティントを終え鵜飼龍太に交代。着実な走行を続けたが、「一生懸命走りましたが、やはり他の車両とのやり取りがうまくできず、無難な走りになってしまいました」と鵜飼は自らのスティントを振り返った。しばらく鵜飼は3番手をキープしていたものの、プロドライバーが駆る#31RCFに先行を許し、直後ピットイン。自らの

スティントをこなし、蒲生尚弥にステアリングを託した。

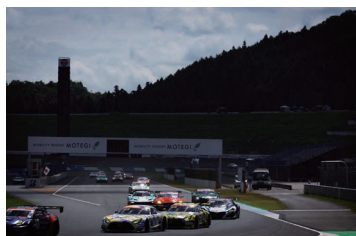
ただ、蒲生もいまひとつペースを上げることができずにいた。加えて、コクピット内では思わぬトラブルが起きていた。メルセデスAMG GT3はシートポジションは固定で、アクセル、ブレーキ、クラッチがついたペダルのベースを動かしてドライビングポジションをとる。そのペダルベースがしっかり固定されず、動いてしまっていたのだ。身長177cmの蒲生ならばまだドライブできていたが、最終スティントに控える片岡龍也の場合、身長170cmとわずかに小さく、ペダルがしっかり踏めない恐れがあった。

蒲生は109周までなんとかコース上に中升ROOKIE AMG GT3をとどめ、ルーティンストップのタイミングまで引っ張りピットイン。チームは片岡に交代する際に一度ガレージインさせ、ペダルベースの修復に当たることになった。給油等の作業を終え、スケートに載せ中升ROOKIE AMG GT3を90度ターンさせると、メカニックたちはガレージに車両を押し始めた。

しかし、ここでさらなる思わぬ

トラブルが。運転席側のドアが開いており、給油塔に引っかかってしまったのだ。「ガン！」という鈍い、嫌な音がピットに響き渡る。この衝撃でドアヒンジを壊してしまい、ペダルベースの修復に加えて思わぬタイムロスを喫してしまった。

20分強の作業時間を経て、片岡はコースに戻りチェッカーまで走り切ったが、9周遅れの6位。ポイントこそ得られたが、思わぬ取りこぼしとなってしまった。「作業での出来事については、チームにとって良い教訓になったと思います。ただ、根本的に今日のレースはウェイトがあったにせよ、遅すぎました。シーズンを通じてペースは悪かったですが、ウェイトも相まって余計それが強調されてしまいました」と監督兼務の片岡は振り返った。「かなり厳しい展開となりましたが、しぶとくレースを続けていくしかないですね」と片岡が語るとおり、シリーズは残り2レース。根本的なペースの改善を行わなければ、僅差で守っているランキング首位の座も簡単に失ってしまう。中升ROOKIE AMG GT3にとって、正念場だ。



2023 年第5戦もてぎ リザルト (TOP5)

9月1日 スーパー耐久 STEL 専有走行1回目 Gr.2 (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	28	ORC ROOKIE GR86 CNF concept	2'10.817
2	32	ORC ROOKIE GR Yaris DAT concept	2'11.188
3	61	Team SDA Engineering BRZ CNF Concept	2'12.349
4	55	MAZDA SPIRIT RACING MAZDA3 Bio concept	2'12.972
5	12	MAZDA SPIRIT RACING ROADSTER CNF concept	2'16.546

9月1日 スーパー耐久 STEL 専有走行2回目 (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	230	Nissan Z Racing Concept	2'02.694
2	28	ORC ROOKIE GR86 CNF concept	2'09.513
3	32	ORC ROOKIE GR Yaris DAT concept	2'11.639
4	61	Team SDA Engineering BRZ CNF Concept	2'12.743
5	55	MAZDA SPIRIT RACING MAZDA3 Bio concept	2'13.437

9月2日 スーパー耐久 ウォームアップ (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	230	Nissan Z Racing Concept	2'02.892
2	32	ORC ROOKIE GR Yaris DAT concept	2'09.472
3	28	ORC ROOKIE GR86 CNF concept	2'10.047
4	271	CIVIC TYPE R CNF-R	2'10.548
5	61	Team SDA Engineering BRZ CNF Concept	2'10.557

9月2日 スーパー耐久 公式予選 A+B (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Total Time
1	230	Nissan Z Racing Concept	4'00.978
2	271	CIVIC TYPE R CNF-R	4'16.917
3	28	ORC ROOKIE GR86 CNF concept	4'18.429
	32	ORC ROOKIE GR Yaris DAT concept	No Time

9月2日 スーパー耐久 公式予選Cドライバー (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	230	Nissan Z Racing Concept	2'02.932
2	32	ORC ROOKIE GR Yaris DAT concept	2'08.770
3	28	ORC ROOKIE GR86 CNF concept	2'08.942
4	61	Team SDA Engineering BRZ CNF Concept	2'10.146
5	55	MAZDA SPIRIT RACING MAZDA3 Bio concept	2'11.772

9月2日 スーパー耐久 公式予選Dドライバー (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	28	ORC ROOKIE GR86 CNF concept	2'10.386
2	32	ORC ROOKIE GR Yaris DAT concept	2'11.688
3	61	Team SDA Engineering BRZ CNF Concept	2'13.012

9月1日 スーパー耐久 STEL 専有走行1回目 Gr.1 (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	81	DAISHIN GT-R GT3	1'54.254
2	202	KCMG NSX GT3	1'54.446
3	14	中升 ROOKIE AMG GT3	1'54.630
4	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	1'55.019
5	1	HELM MOTORSPORTS GTR GT3	1'55.277

9月1日 スーパー耐久 STEL 専有走行2回目 (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	1'55.661
2	81	DAISHIN GT-R GT3	1'56.230
3	31	DENSO LEXUS RC F GT3	1'56.387
6	14	中升 ROOKIE AMG GT3	1'57.022

9月2日 スーパー耐久 ウォームアップ (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	1	HELM MOTORSPORTS GTR GT3	1'54.270
2	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	1'54.729
3	202	KCMG NSX GT3	1'55.275
4	14	中升 ROOKIE AMG GT3	1'55.725
5	31	DENSO LEXUS RC F GT3	1'56.724

9月2日 スーパー耐久 公式予選 A+B (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Total Time
1	31	DENSO LEXUS RC F GT3	3'49.124
2	1	HELM MOTORSPORTS GTR GT3	3'49.182
3	14	中升 ROOKIE AMG GT3	3'49.237
4	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	3'49.993
5	202	KCMG NSX GT3	3'50.850

9月2日 スーパー耐久 公式予選Cドライバー (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	81	DAISHIN GT-R GT3	1'55.404
2	14	中升 ROOKIE AMG GT3	1'55.881
3	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	1'56.321
4	202	KCMG NSX GT3	1'56.396
5	1	HELM MOTORSPORTS GTR GT3	1'57.293

9月2日 スーパー耐久 公式予選Dドライバー (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	81	DAISHIN GT-R GT3	1'56.389
2	14	中升 ROOKIE AMG GT3	1'56.403

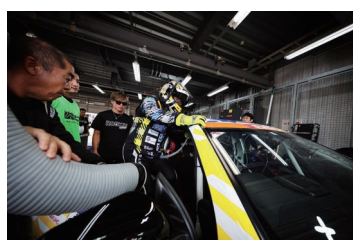
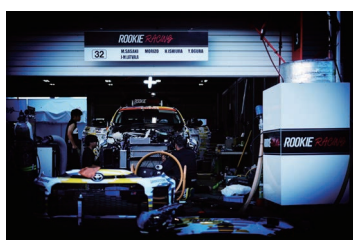
2023 年第5戦もてぎ リザルト

9月3日 スーパー耐久第5戦もてぎ 決勝レース結果 (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Laps	Time	Gap
1	230	Nissan Z Racing Concept	138	5:02'16.750	
2	32	ORC ROOKIE GR Yaris DAT concept	130	5:02'40.978	8Laps
3	28	ORC ROOKIE GR86 CNF concept	129	5:02'21.115	9Laps
4	55	MAZDA SPIRIT RACING MAZDA3 Bio concept	129	5:03'16.948	9Laps
5	61	Team SDA Engineering BRZ CNF Concept	129	5:03'18.002	9Laps
6	12	MAZDA SPIRIT RACING ROADSTER CNF concept	114	5:03'08.548	24Laps
7	271	CIVIC TYPE R CNF-R	112	5:02'11.570	26Laps

9月3日 スーパー耐久第5戦もてぎ 決勝レース結果 (ST-X)

Pos.	No.	Car Name	Laps	Time	Gap
1	31	DENSO LEXUS RC F GT3	147	5:01'52.737	
2	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	147	5:02'41.078	48.341
3	81	DAISHIN GT-R GT3	147	5:02'58.829	1'06.092
4	1	HELM MOTORSPORTS GTR GT3	146	5:01'53.483	1Lap
5	202	KCMG NSX GT3	146	5:03'34.138	1Lap
6	14	中升 ROOKIE AMG GT3	138	5:03'32.646	9Laps



ROOKIE RACING

Super Taikyu
Japanese Endurance Race

ROOKIE Racing の活動は、多くの皆さまのご協力によって支えられています

